

151 No. 13: グローバル人材の育成－交換留学の輪 本県にも (令和2年3月24日)

英国の教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーションは昨年9月、92の国・地域の1396校をランク付けした「世界大学ランキング2020」を発表した。同ランキングは世界で最も権威と知名度があり、留学する大学を選ぶ指針として世界中で活用されている。

世界1位は4年連続で英国のオックスフォード大。2位は前年の5位から躍進したカリフォルニア工科大。以下、ケンブリッジ大、スタンフォード大、マサチューセッツ工科大と常連校が顔を揃える。

アジアでは、中国の清華大(23位)がアジア1位で、中国の北京大(24位)、シンガポールのシンガポール国立大(25位)、香港の香港大(35位)と続く。

国内大学の最高順位は東京大の36位で、世界のエリート大学と見なされるトップ200に入ったのは京都大(65位)を含む2校にとどまった。

こうした中、宇都宮大国際学部3年生の奥崎亜依里^{おくざきあいり}さんが香港大に留学生としてやってきた。宇都宮大と香港大は「学生交流に関する覚書」等を締結し、いわゆる交換留学を実施している。

香港大は1887年創立の総合大学で、香港で最も長い歴史を有しており、あの孫文も卒業生の一人である。医学部、法学部、建築学部などがあり、中国はじめ世界各国から多くの人が学びに来る。

一方、宇都宮大に留学していた香港大の学生たちには、帰港後、香港で行われる栃木県の観光イベントなどで通訳をお願いしている。宇都宮に住み、週末に県内各地を観光していた彼女たちの説明には実感がこもっており、来場者の胸にも響くようだ。彼女たちの日本語が標準語よりもほんの少しだけ栃木弁に近いのも愛嬌だ。

香港では、昨年6月から半年以上に渡って一部過激な抗議活動が続いている。最近では世界中で感染が拡大している新型コロナウイルス肺炎の影響もあり、生活する上での制約も少なくない。しかし、そうしたマイナスを差し引いても、多様な人種による文化の違いやコミュニケーションのあり方、若者の活力、発想の豊かさなど余りある多くのことを学ぶことができる。

若者には是非、海外、特にアジアでの留学を通じ、グローバルな視点で考え、行動する力を養ってほしいと思うとともに、栃木県の施策「とちぎグローバル人材育成プログラム」を活用し、一人でも多くの栃木県出身者が世界で活躍することを願っている。

毛塚 隆弘(けづか たかひろ)

栃木県香港事務所所長。1993年県庁入庁。産業政策課、国際課などを経て日本貿易振興機構(ジェトロ)に出向。2017年4月から現職。栃木市出身。



【毛塚氏(左端)、奥崎さん(右端)と県香港事務所のスタッフや香港大から宇都宮大への留学生たち】